

蜂産品配合健康食品で風邪予防

～マヌカ蜂蜜・プロポリスでは抗インフルエンザウイルス効果を確認～

株式会社山田養蜂場(本社:岡山県苫田郡鏡野町 代表・山田英生)は、マヌカ蜂蜜^{*1} やプロポリス^{*2} 等ミツバチ産品を配合した健康食品の飲用による風邪の自覚症状改善効果を確認しました。過去の細胞試験より、マヌカ蜂蜜とプロポリスは抗インフルエンザウイルス作用が確認されており、健康維持への効果が期待されます。

1) 蜂産品配合健康食品 飲用による風邪の自覚症状の改善

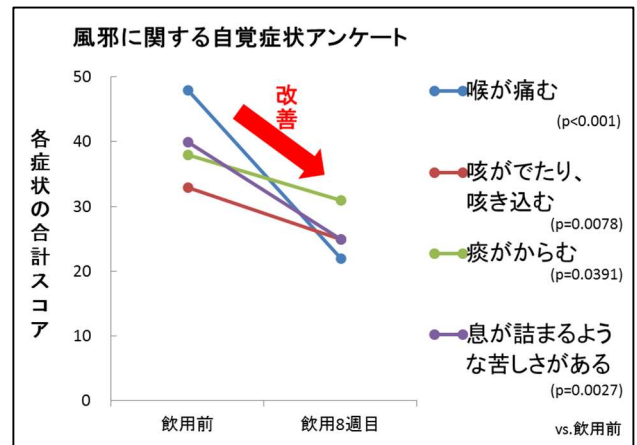
Japanese Pharmacology & Therapeutics (薬理と治療), 44(1): 93-99, 2016.

マヌカ蜂蜜、ローヤルゼリー、プロポリス、花粉荷等のミツバチ産品を配合した健康食品の飲用による効果を、滋賀県長浜市の協力のもと、47の質問項目により体調を網羅的に評価できるアンケートを使用した試験を行いました。

【試験内容】

20～79歳の成人男女250名に蜂産品配合健康食品を1日約3gずつ、8週間飲用してもらいました。飲用前後に症状の頻度を4段階(0点:ほとんどない～3点:頻繁にある)で答えてもらい、回答者全員の合計スコアを集計、検証しました。

その結果、飲用前と比較して、飲用8週間後に風邪に関する自覚症状が改善されました。

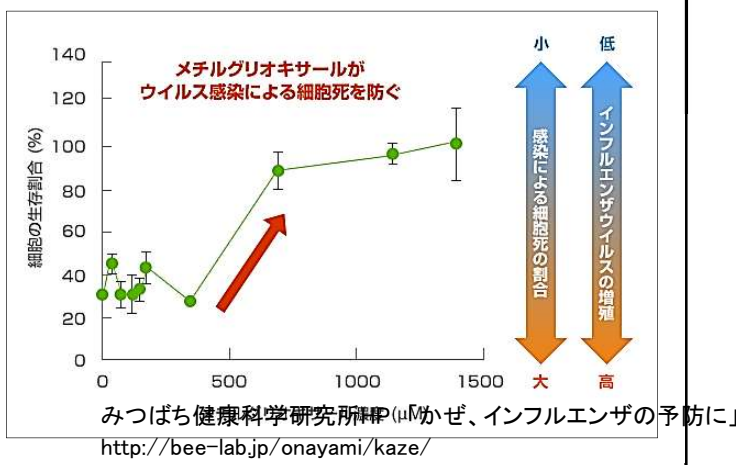


<過去の研究成果の紹介>

2) マヌカ蜂蜜の抗ウイルス効果

Siriwan C et al., *Archives of Medical Research*, 46(1): 8-16, 2015.
(山田養蜂場みつばち研究助成基金 2011年度採択研究
長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 渡辺 健)

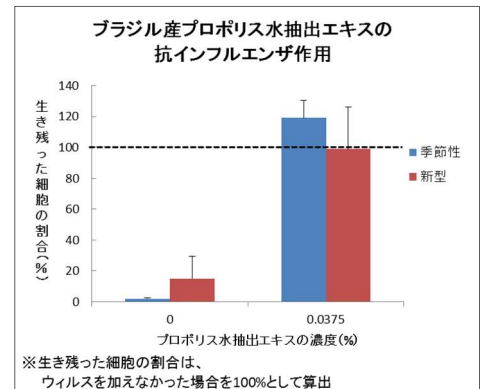
培養した細胞にマヌカ蜂蜜に含まれる抗菌物質である「メチルグリオキサール」を加え、インフルエンザウイルスを感染させました。その結果、メチルグリオキサールの濃度が高いほど細胞の生存割合が増加しました。



3) プロポリスの抗ウイルス効果

(2010年自社研究)

培養した細胞に季節性^{*3}または新型のインフルエンザウイルス^{*4}を添加し、ブラジル産プロポリスの水抽出物エキスを加えて3日間培養しました。プロポリス水抽出物エキスを0.0375% (w/v^{*5})以上加えた場合に、ほぼ全ての細胞がウイルスによって破壊されることなく、生き残りました。



(本リリースに関するお問い合わせ)

株式会社山田養蜂場 文化広報室 関(ts0975@yamada-bee.com)、武本(tt1794@yamada-bee.com) / 〒708-0393 岡山県苫田郡鏡野町市場194
TEL:0868-54-1906 / FAX:0868-54-3346 / HP:http://www.3838.com
みつばち健康科学研究所 HP : http://www.bee-lab.jp / Facebook: https://www.facebook.com/bee.lab.3838 / Twitter:@yamadabeelab

【用語解説】

※1) マヌカ蜂蜜・・・ニュージーランドの原生植物マヌカの花から採取した蜂蜜。

※2) プロポリス・・・ミツバチが採取した植物の新芽や樹脂等に、ミツバチ自身の分泌物などを混合して作る天然物質。ミツバチはプロポリスを巣の入り口や壁、すき間に塗りつけることで、菌やウイルス等から巣を守っている。

※3) 季節性インフルエンザ(H1N1)・・・インフルエンザウイルスは大きく分けて A 型、B 型、C 型の 3 種類があり、近年国内で流行しているものは A(H1N1)亜型と A(H3N2) 亜型(香港型)、B 型である。

※4) 新型インフルエンザ(H1N1)・・・2009 年 4 月に新型インフルエンザウイルスとして発生が報告されたブタ由来のインフルエンザ。現在は季節的な流行を繰り返すようになり、2015 年 12 月中旬～2016 年1月上旬では 2009 年の新型インフルエンザが最も多く検出された。

※5) w/v・・・溶液の濃度を示す単位。w は weight (重さ)、v は volume (体積)を示す。

※6) 花粉荷・・・ミツバチが花粉を蜜で固めた、だんご状のもの。タンパク質、ビタミン、ミネラルといった栄養素をバランスよく含んでいる。

【出典】 本リリースでご報告した研究成果は、下記の論文にて発表。当社 HP にも掲載しています。

①浅間孝志、山家雅之、齋藤信一郎、木村友香、福島忍、佐道哲也、皆川直人、茅嶋美貴子、一圓剛、村松正明
Validation of Questionnaires as Food Supplements Efficacy Evaluation Method by Royal Jelly and Bee Energy® Intake
Japanese Pharmacology & Therapeutics (薬理と治療), 44(1), : 93-99, 2016.

②Siriwan Charyasriwong, Ken Watanabe, Ratika Rahmasari, Ayaka Matsunaga, Takahiro Haruyama, Nobuyuki Kobayashi.

In Vitro Evaluation of Synergistic Inhibitory Effects of Neuraminidase Inhibitors and Methylglyoxal Against Influenza Virus Infection.

Archives of Medical Research, 46(1): 8-16, 2015.

③みつばち健康科学研究所ホームページ 「かぜ、インフルエンザの予防に」

<http://bee-lab.jp/onayami/kaze/>